

広報

だんち

新年のご挨拶



令和8年の新春を迎えるにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

当組合が全国有数の水産加工団地として50年以上にわたりその歩みを重ね、今日まで発展を続けてこられましたのも、諸先輩方ならびに関係各位の皆様のご尽力と温かいご支援によるものであり、改めて深く感謝申し上げます。幾多の試練に直面しながらも、組合員の皆様が固く結束し、役職員が現場の知恵と工夫を寄せ合って困難を乗り越えてこられた歴史を振り返りますと、敬意と誇りの念を新たにしております。

さて、昨年水産資源の減少、原料費やエネルギーコストの高止まり、さらに労働力不足など本業を揺るがしかねない課題が続く、私たちを取り巻く環境は依然として厳しい状況にありました。そのような中、当組合が比較的安定した操業を維持し、日々の事業活動を着実に進めることができましたのは、組合員企業の皆様のご支援とご協力、そして職員一人ひとりの責任ある努力のおかげであります。一方、昨年全国各地で相次いだ道路の陥没や漏水事故は、インフラの老朽化が決して他

2026
1月号

新春特別号

NO.528

(協)焼津水産加工
センター発行

焼津市惣右衛門1280番地の2

令和8年1月28日発行

編集・総務係

TEL・054-624-2111

FAX・054-623-3834

HP・<http://www.yaizufpc.or.jp>

協同組合

焼津水産加工センター
代表理事 増田聖剛

人事ではないことを示しました。設備を預かる当組合においても、給水・排水・ガス等の確実な保守点検を継続するとともに、将来を見据えた改修と更新を一層計画的に推し進め、安心して操業に専念できる環境の維持と向上に、今後も力を注いでまいります。

また、加速し続けるAIの進化は、業務効率化と働き方の見直しに大きな可能性をもたらしています。AIは人に代わって責任を負う存在ではなく、人が本来注力すべき創意ある仕事に時間とゆとりを生み出す道具です。現場の知見と経験を生かしながら適切に活用することが、生産性と業務の質を高め、日々の改善活動と一体で進める鍵となります。

当組合としては、改善提案や見える化など従来の取り組みに最新技術を柔軟に組み合わせ、職場の活力と納得感を広げてまいります。そして、改善を中心とした歩みの積み重ねを通じて、最終的には組合員満足度の向上に結び付けていくことが、私たちの目指すべき道であります。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、本年も変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

新年あけましておめでとうございます 午

(株) 柳屋本店
代表取締役

村松 康範

(株) カネゼン
代表取締役

田村 敦史

(株) 金虎
代表取締役

寺尾 啓

(株) 木村商店
代表取締役

木村 吉昭

(株) マルテ小林商店
代表取締役

小林 正典

(株) 仲吉
代表取締役

鈴木 啓史

(株) まる福
代表取締役

齋藤 和子

(株) マルハチ村松
代表取締役

村松 善八

焼津水産化学工業(株)
代表取締役

片山 達

(株) 富士冷
代表取締役

村松 康範

(株) マルシメ21
代表取締役

青野 哲也

(株) カネマサ
代表取締役

増田 聖剛

(株) マルヨシ
代表取締役

小林 正典

(株) トマル水産
代表取締役

大石 智之

(株) 焼津マリンセンター
代表取締役

増田 聖剛



1月団地の言葉

「新年の無事故は 基本の繰り返し」

新年明けましておめでとうございます。本年も組合・組合員ともに力を合わせ団地の発展に尽力して参ります。

年末年始は暦の並びが良く、最大9連休と言う企業もあったので、故郷に帰省したり旅行や初詣に行ったりと満喫された方も多かったのではないのでしょうか。外出する機会が多かったと言う事は、人混みの中へ行く機会が多かったかと思いますが、マスク着用など風邪の予防はキチンとされましたでしょうか？年末年始に休日当番医の前に朝から長い行列が出来ていたのを目にする事もありました。まだまだ寒くて乾燥した状態は続くと思われるので、手洗い・うがい・消毒を徹底し風邪の予防に努めましょう。また年始から全国あちこちで山林火災が発生しており、火災覚知から一週間が過ぎても鎮圧に至っていない場所もあります。雨が降らず極端に乾燥し、強風が吹き荒れていて火勢が広がる条件が揃い過ぎている事が要因だと思われます。1月17日(土)には藤枝市瀬戸ノ谷で山林火災が発生し、鎮圧まで日数を要しました。遠く離れた場所での山林火災なので我々焼津市民には無関係と思えますが、山中にある送電線が燃えたりすれば電力の供給に支障をきたし、また河川に煤や灰が流れ出せば下流で



暮らす私たちの生活にも影響を及ぼしかねません。この時期の屋外での火の取り扱いには十分ご注意ください。今月のだんちの言葉はトマルさんの作品です。

◆1月の定例役員会◆

去る1月13日に、1月度定例役員会が開催されました。

1 新年度事業計画の策定スケジュールについて

新年度の事業計画スケジュールにつき、重点取組事業の確立、事業予算案の策定とその承認スケジュールについて、以後の定例会議にて順次上程し、検討期間を踏まえて審議・決定すると確認された。また、予算策定に大きく関連する人事措置等について、2月初旬に総務委員会を開催し審議することとした。

2 鯉節加工部修繕工事の進捗について

行政の確認を踏まえ12月上旬より着手している鯉節加工部の施設改修については、予定通り1月16日に完了し、職員による一斉清掃を行った上で1月19日より操業再開すると報告された。

3 団地内道路埋設管に関する空洞調査について

一昨年の埼玉での陥没事故から道路下の空洞調査が各地で行われているが、給排水・ガス事業により埋設物を有する当組合もこの調査は必須として、昨年暮れにかけて実施し、このほど調査結果が報告された。若干箇所

で機器が反応したが空洞ではないと判断され、結論として喫緊に修復対応する箇所はないとされたことを報告した。

その他報告連絡事項

「化成原料引取価格の改定について」ほか2件について了承された。

◆地元協議会を開催◆

1月17日(土)、公害防止協定に基づく地元自治会との協議会を行いました。

この協議会は毎年開催しており、地元の和田第21自治会より村松会長をはじめ四役に足をお運び頂き、加工団地での昨年1年間の取り組みや今後の予定等を報告させて頂きました。協議会の最後に、村松会長より「加工団地の皆さんの自治会活動への協力に対し感謝いたします。また、今後も協力体制の維持を願います」と述べられ会を閉じました。

◆第52期生修了式◆

52期生11名の3年間にわたる実習終了式が、年明けの1月5日(月)に監理団体の加工センター大会議室にて執り行われました。

コロナ禍の収束間際に来日したこの11名は、長い間望んでいた来日が実現でき、入国時から非常に明るく、日本語での簡単な冗談も通じるほど意欲的でした。特に印象的だったのは、入国直後の休日に自ら新幹線に乗り横浜の友人に会いに行った女子実習生です。彼女は11名の実習生の中で唯一、介護の資格を取得し、介護の特定技能へ移行することを自分で決意しました。



また、52期生唯一の男子実習生は、実習終了後は自動車整備の学校へ進学し、将来は自動車修理の仕事に従事したいという明確な目標を語ってくれました。

この3年間、11名は大きなトラブルもなく、誠実に業務に励んでくれました。

実習終了後は、団地に残る女子1名を除き、それぞれが新たな場所へ行くことになりました。

終了式の席で、監理団体の水野理事による挨拶の後、受け入れ企業の実習責任者からも励ましの言葉が贈られました。

11名がそれぞれの目標を持ち、幸せな生活を送ることができるよう、周辺からお祝いの言葉が贈られました。

◆実習生新年会を開催◆

1月11日(日)に、当組合1階の大会議室にて実習生の新年会を開催しました。

今回は、正月休み中に日本国内外へ観光に行く者が多くいることを配慮して、年明けの11日に行うことにしました。在籍者のうち、半数以上の実習生が参加したため、賑やかな



されています。そのため、第2期生として19名の受け入れが決定し、2月ごろに来日する予定です。また、例年と同じく、アパートの衛生評価が優良だった部屋への報酬に予算を重点的に使いました。

当日は、インドネシアの実習生による民族舞踊の披露や、ミャンマー、タイの実習生も交えた風船踏みゲーム、ビンゴ大会などで盛り上がりました。また、特定技能1号生も6名ほど参加して、実習生たちと親睦を深め

新年会を開催することができました。今年の新年会は、昨年10月17日に入国したインドネシア人実習生の13名が新たに参加しました。彼らは実習先企業からも「真面目で明るい」と高く評価



ました。参加者からは「来年も新年会をぜひ開催してほしい」と要望されました。当組合では、実習生との信頼関係を作り、(協)焼津水産加工センターでの生活が良い思い出となるよう、今後もこうしたイベントを継続的に開催する予定です。

◆鯉節加工部改修工事◆



12月より行っていた鯉節加工部の改修工事が概ね完了し、1月19日(月)より稼働再開しました。煮釜の一部と水骨フイン・放冷ラインが撤去され、骨抜きは丘骨方式になりました。

今回の改修により作業の流れにも変化があり、しばらくは手探りでの運用になるかと思えます。新しくなった鯉節加工部もよろしくお願ひ致します。

2025年（1月～11月計）の輸出 ※輸出はFOB価格、輸入はCIF価格
 ※財務省貿易統計データを加工して作成



カツオ

<輸 出>		2025年		2024年	
		数量 t	価額 (千円)	数量 t	価額 (千円)
タ	イ	11,261	2,375,425	28,671	5,543,185
フ	ィ	1,942	471,503	3,887	894,607
ニ	ュー	18	5,291	—	—
計		13,237	2,856,661	33,531	6,620,691

<輸 入>		2025年		2024年	
		数量 t	価額 (千円)	数量 t	価額 (千円)
イ	ン	26,818	5,691,420	29,113	6,032,660
ベ	ト	1,033	178,723	50	7,723
ブ	ル	401	84,536	350	74,403
計		28,930	6,088,808	30,166	6,248,975

FOB (Free on board)

買手の指定した本船に商品を積み込むまでの費用を売り手が負担する条件

CIF (cost, insurance and freight)

買主指定の輸入港までの運賃と保険料を付け加えた条件

※水産庁統計データ冷蔵水産物流通統計月末在庫を加工して作成

冷凍かつお月末在庫量	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2025年(単位:t)	22,194	23,028	19,309	20,761	19,979	17,142	15,898	18,478	19,240	18,736			194,765

§ 国内主要漁港市場の水揚 (2025年1月～11月計) ※水産庁統計データ産地水産物流通統計を加工して作成

情報

<生カツオ>	2025年		2024年		前年比%	
	数量 t	単価	数量 t	単価	数量	単価
<生カツオ>	18,606	557 円	51,372	329 円	36%	169%
<冷カツオ>	146,612	271 円	161,941	255 円	91%	106%
<カツオ合計>	165,218	303 円	213,313	273 円	77%	111%

§ 焼津水揚 (2025年1月～12月計)

※焼津漁業協同組合統計データ取扱高対比表を加工して作成

<1本釣カツオ>	2025年		2024年		前年比%	
	数量 t	単価	数量 t	単価	数量	単価
<1本釣カツオ>	27,584	339 円	10,987	350 円	251%	97%
<巻網カツオ>	51,422	227 円	64,089	222 円	80%	102%
<カツオ合計>	79,006	266 円	75,076	241 円	105%	110%

百味窓

白眉 (はくび)

白眉は、多くの優れたものの中から特に抜きん出て優れている人や物を表現する際に使われます。単に優秀であるだけでなく、周囲から高く評価され、その実力や人徳を兼ね備えている人物像も示唆します。この言葉は三国志に登場した人物が由来となっているのです。蜀国には馬氏という優れた5人兄弟がいた。字(あざな)に全員「常」と言う文字があったので、馬氏の「五常」とも呼ばれた。4番目の馬良季常は才能・人物に優れているとされ、特徴であった白い眉を持って、「馬氏の五兄弟白眉最も良し」と呼ばれ、郷里ではこれをことわざにして、「白眉」は前の内容の代名詞となりました。

残念なのは一番の末弟は諸葛孔明に「泣いて馬謖を斬る」でも有名な馬謖である。